

殉教者

シリーズ・パウロ
第2回

教会の誕生と宣教

<使徒1～5章>

- イエス・キリストの死と復活, そして帰天
- 聖霊による教会の誕生
 - 集まって祈っているときに起こった不思議
- 奇跡を伴う宣教
 - 弟子たちは「しるしと不思議な業」を行った
 - キリストの死と復活を宣べ伝え始めた
- ユダヤ教指導者とのトラブル
 - 投獄・議会での証言

教会の拡大と問題

＜使徒6:1～7＞

- 初代教会の信徒たちの多くは、共同生活を送っていた
- 一度に多くのそして様々な人々が仲間になったので、いろいろなもめ事が起こった
- 弟子たちだけでは解決できなくなったので、7名のリーダーが選ばれた
- **ステファノ**はその一人であり、「信仰と聖霊に満ちている人」であった

ステファノ事件

＜使徒6:8～15＞

- 不思議な業とするしを民衆の間で行った
- 外国出身のユダヤ人たちが、ステファノと議論した
 - なぜ外国出身者なのか（前章のいきさつ）
 - パウロはギリキア州出身である
- 議論に負けた人々は偽証者を立て、ステファノを最高法院に連れて行った
 - 彼が律法を侮辱し、神殿を壊そうと企んでいる

ステファノの説教

＜使徒7:1～53＞

- アブラハムの選びと祝福の約束
- ヨセフによる民族の救い
- モーセの選びと出エジプト
- ダビデ・ソロモンによる神殿建築
- 預言者を殺してきたように、神から遣わされた救い主を裏切り、殺した
 - 「彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。」7:52

ステファノの殉教

＜使徒7:54～60＞

- ステファノの説教を聞いていた人々は激しく怒り、歯ぎしりした
- ステファノは「人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った
- 人々は耳を塞いでステファノに襲いかかり、都の外に引きずり出して石を投げて殺した
- ステファノはひざまずいて、「**主よ、この罪を彼らに負わせないでください**」とさけび眠りについた

サウロ(パウロ)登場

- ステファノの死を目撃したパウロ
 - 「都の外に引きずり出して石を投げ始めた。証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。」7:58
- ステファノの死刑に賛成し、荷担したが、その姿は心に残っていた
 - 「あなたの証人ステファノの血が流されたとき、わたしもその場にいてそれに賛成し、彼を殺す者たちの上着の番もしたのです。」22:20

殉教者

- パウロはなぜステファノを「証人」と呼んだのか？
 - 「証人」(マルトウース)は「殉教者」(マーター)の語源
- ステファノが自らの死をもってキリストがよみがえって生きていることを証したから
- ステファノはパウロの一生の手本となった
 - 「わたしにとって、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです。」<フィリピ1:21>